

学生と教員の見方



【ポイント】
ポールのサイトを探し興味を覚える。物件の家がどこで見るとする。

立ち並んでいるイメージのつたように思っ、一方でものが少なくない。見学対象団地もそういう団地である。
計画当時、この団地の公園がどのように使われていたかを正確に言い当てることは難しい。しかし、自分が小学生だった頃の記憶を重ねてみると、なんとなくその使い方が想像できる。今、大勢の小学生がいたとしても、この団地の公園は、昔のように使われないうちと考える。この団地の公園に限らず、公園は小学生の遊び場ではなく、家族や近隣の住人のための憩いの場として機能するようになってきた。つまり、公園の主役が小学生から大人に移ったように感じる。時代と共に公園の機能や目的は変わっている。細杉さんの指摘は、この実態を的確に捉えたものと言える。

【学生の見方&考え方】
(3年 細杉れいみ)

先日、授業の一環で、首都圏郊外に所在する高経年団地型マンションを見学した。築年数は約50年、総戸数約600戸、5階建てでエレベーターはない。

団地内には5つの公園があるが、どの公園も雑草が生い茂り、遊具も古く錆びていた。団地の中心にある一番大きな公園では住民がベンチに座っていた。しかし、子どもが遊んでいる様子は見られないし、積極的に公園が活用されている感じもない。この状況の背景には、この団地に住んでいる子どもが極めて少ないこ

ニーズに合わせた公園の使い方

とが大きく関係していると思われるが、大人もほとんど使っていないのが実状だ。
一方、団地外に目を向けると、新しい住宅地の公園では、親子の姿がたくさん見られた。新しい住宅地には子どもがたくさんいるという前提があるが、公園の様子も異なっていた。新しい公園は地面も歩きやすい砂敷きだし、設置されている遊具には親子で遊べる仕掛けがあった。ニーズをよく理解し、それに合わせた公園設計にしていることが、その

変化する遊び方・住民

新旧施設で異なる設計

利用状況に大きく影響して遊具とわずかなベンチがあるだけでは、高齢者にとって使いやすい公園とは言えない。新しく子どもを増やすことは難しい。それで、この視点が重要だと考えれば、現住民にとって使いやすい公園にしていく発案が必要だと考えた。高年齢者に焦点を合わせた使用方を考える必要がある。

【教員による展開】

高年齢者に焦点を合わせた使用方を考える必要がある。例えば、運動不足解消のため健康遊具を置いたり、外のコミュニケーションを促すために対面型のベンチを置くことが考えられる。新築時と変わらぬ錆びあふれる公園の中に住棟が

(藤木亮介准教授)

今から50年以上前に計画された大規模団地は、住棟の周りに公園が整備されているイメージではなく、緑が

の周りに公園が整備されているイメージではなく、緑が

の周りに公園が整備されているイメージではなく、緑が

の周りに公園が整備されているイメージではなく、緑が